

県北広域振興局								
名称		金額		事業コード			評価結果	
No.	事業名	事業主体	事業費 (円)	推進費 (円)	事業性質	事業小区分	種別	事業実施主体による評価
1	市町村人口減少対策支援事業	県北広域振興局	322,125	322,125	4 県・上記以外	12 NPO・コミュニティ	1 ソフト	(勉強会開催事業) ① 成果:当初予定していた回数及び内容を開催することができた。 ② 分析:各市町村において、様々なジャンルの政策立案が行われたが、予算化につながらなかった事業等があったことから、令和8年度は事業化への仕組みづくりが必要と感じた。 ③ 今後:令和8年度は、久慈地域及び二戸地域での勉強会を開催し、終了後に立案した政策の発表会を開催し、事業化につなげる。 (住宅対策調査事業) ① 成果:各市町村における住宅、宅地や賃貸住宅の状況確認を行うとともに、住宅関連事業と空き家バンクの活用策の確認などを行った。 ② 分析:各市町村で対応方法等が様々であることから、個別に対応する必要を感じた。 ③ 今後:令和8年度は、地域振興室が所管する過疎地域等政策支援員の派遣などを活用し、市町村の住宅対策を支援していく。
2	カシオペア若者地域定着促進情報発信事業	県北広域振興局	1,980,000	1,980,000	1 県・委託	12 NPO・コミュニティ	1 ソフト	ゲスト出演(地域おこし協力隊や移住コーディネーター)による放送内容の充実化を図り、SNS(Xアカウント)やアーカイブ放送を行うことで、情報発信の強化に取り組んだ。リスナーアンケート調査(40名)によると、番組内容については好評であり、二戸市以外の視聴者も獲得できていた。また、出演者を対象としたアンケート(25名回答)によると、有効な情報発信の機会となった旨の回答が7割を超えていたため、一定の成果があったと考えられる。 一方、出演者からは、地域の人とのつながりができていないといった課題等も挙げられ、対面による交流イベント開催を求める意見も多数あったため、通年でのカシオペアFMでの番組放送は令和7年度で終了とし、令和8年度からは、地域のコミュニティ形成に注力した新規事業を実施することとしている。
3	北いわてしごと・くらし情報発信事業	県北広域振興局	2,001,379	2,001,379	4 県・上記以外	12 NPO・コミュニティ	1 ソフト	○県庁主催の移住フェア等における仕事への個別相談等への対応(一部新規) 管内市町村ブースで「仕事」に関する相談者がいた場合は、本ブースに誘導してもらうなど連携強化を図ったことから、昨年度と比較し大幅に相談者が増加した。また、本ブースに訪問した相談者が移住体験ツアーに参加するなど、県北地域に興味を持ってもらうきっかけにもつながった。移住を検討するにあたって仕事判断材料のひとつになっていることがわかったことから、今後も関係機関と連携し対応していく。 ○移住体験ツアー(広域振興事業)交流イベント開催支援 ツアー参加者と自治体関係者を集めた交流会は、移住を進めるうえで必須な自治体担当者との関係づくりやツアー実施中になかなか質問しきれなかった内容を深掘りの時間に当てられ、参加者・自治体関係者の双方にとって満足度の高い内容であった。来年度もツアーを実施予定であることから、合わせて継続できるよう検討していく。 ○北いわて移住定住ガイドマップ等制作業務(新規) これまで、移住フェア等で県北地域を紹介する際、各市町村のパフレットはあるものの、日本全体における位置やアクセス、気候や各市町村の特徴を一体的に紹介できるものがなく、県北地域の情報が伝わりづらい状況であった。本ガイドマップにより、県北地域で暮らすことのイメージを持ってもらうことや、管内市町村が移住定住を推進するための共有ツールとしての活用が期待される。今後、各種移住フェア等での活用や情報発信に取り組んでいく。 ○北いわて企業ガイドブック作成業務 これまで、首都圏での移住フェアや管内市町村の二十歳の集いでの配布のほか、移住体験ツアー参加者への配布を行った。移住体験ツアー参加者の中からは、本ガイドブックで紹介した企業を見学のために再訪するなど、U・Iターン就職を検討する方へのPRツールとして効果が見られた。今後は、データ版の活用を中心に取り組んでいく。 ○イベントPR資材の作成(新規) 県・市町村それぞれで様々な関連パンフレット等を作成しており、今年度作成したビニールバックはそれらをまとめて参加者に配ることに貢献した。来年度以降も移住関連イベント等での配架を継続する。 ○協力隊フォローアップ担当職員研修の開催支援(新規) 本地経費で実施した研修会・意見交換会は、参加者の満足度も高く、効果的な内容であったことから、来年度も継続して開催する。来年度以降については、地域内で持続可能な研修としていくためにも、地元中間支援組織に委託して実施していく。

地域経営推進費 事業評価結果一覧表

	名称		金額		事業コード			評価結果
No.	事業名	事業主体	事業費 (円)	推進費 (円)	事業性質	事業小区分	種別	事業実施主体による評価
4	北いわて・子ども文化芸能体験ひろば	県北広域振興局	1,068,575	1,068,575	1 県・委託	15 その他圏域の課題解決	1 ソフト	児童等が文化芸術や民俗芸能を体験するイベントについては、予定人数を上回る児童が参加し、体験を通じた交流を図れた。民俗芸能団体の派遣については、放課後子ども教室を中心に実施し、子ども達が民族芸能に触れあい、親しみをもつ機会とすることができた。
5	八戸圏域とのスポーツ交流・連携推進事業	県北広域振興局	152,100	152,100	4 県・上記以外	15 その他圏域の課題解決	1 ソフト	岩手ビッグブルズと青森ワッツの選手等を招聘し、スポーツ体験や選手及び他圏域の児童と交流する体験教室に62名参加した。参加児童のバスケットボールの経験の違いもあり、体験がうまくできなかったとの意見もあったことから、来年度は習熟度や経験の有無などを考慮して実施する。
6	就労継続支援事業所の経営支援事業	県北広域振興局 久慈地域障害者自立支援協議会	584,996	584,996	1 県・委託	8 子育て・福祉	1 ソフト	えーびーマーケットは令和5年度から開始し、今年度で計6回の開催となったが、開催する度に来場者数や売上額が上昇している。地域住民に根ざしたイベントになってきており、事業所の知名度の上昇にもつながっている。 モデル事業については、個別研修の申込が無く、事業所への周知不足の他、研修の内容について検討する必要があったと思われる。 全体研修については、参加事業所から概ね好評な意見が上がったほか、個別相談を3年間継続して受けた事業所からは、この個別相談で学んだことが事業継続に繋がったとの声が挙がっており、一定の成果はあったと考える。
7	アイばあちゃんのキャラバン隊～こころとからだの健康づくり～	県北広域振興局	216,344	216,344	4 県・上記以外	7 地域医療・健康づくり	1 ソフト	九戸村及び軽米町と早期に課題の共有を行い、対象者や内容を検討、ハイリスクへの啓発を行うことができた。それぞれ1回の開催であったが、自殺予防だけでなく、健康課題を総合的に普及啓発することで、参加者が自分のこととして捉えることができたものと考える。 自殺死亡率及び脳卒中等生活習慣病の死亡率の減少は、1回の出前講座で改善は難しいが、ハイリスクへのアプローチも考えてより住民への普及啓発を行っていく必要がある。
8	久慈地域公共交通利用促進事業	県北広域振興局 岩手県北自動車株式会社	194,520	136,000	2 県・補助	15 その他圏域の課題解決	1 ソフト	今年度の事業実施に当たっては、令和6年度までの実施状況を踏まえ、年度の前半と後半で、企画切符の販売枚数に上限を設ける等の工夫をし、年度後半にも切符を活用できるよう見直しを行ったほか、イベント参加に係る費用(食事代等)への充当も引き続き可能としたところだが、結果的に販売枚数は目標を下回る結果となった。 一方で、令和7バス事業年度(R6.10～R7.9)の路線の利用者数は前年を上回ったことから、引き続きバス事業者や沿線市町と連携し、路線維持のため利用促進に取り組んでいく必要がある。
9	久慈・二戸地域「ふれあいウォーキング」事業	県北広域振興局	334,350	334,350	1 県・委託	12 NPO・コミュニティ	1 ソフト	イベント後に実施したアンケート結果によると、参加者はインフラ施設の役割や整備・維持管理の重要性を理解したと回答しており、事業の目的は概ね達成できた。一方で、参加者の年齢層が高い傾向にあり、地域の建設業における担い手確保という観点からは、十分な成果が得られていない状況である。 次年度は、ターゲットを絞り込み、若年層の関心を惹きつけるイベント内容や実施方法を検討・実施することにより、地域の建設業の担い手確保への一層の寄与を図る。また、事業を継続することにより、インフラ施設の整備・維持管理の重要性について、参加者の理解促進を図る。
10	県北にのへ環境を守り育てる人材育成事業	県北広域振興局	645,600	645,600	1 県・委託	10 環境	1 ソフト	県境産廃不法投棄事案の出前授業については、参加者から内容に対し良い評価を得られた一方、まだまだ当該事案を知らないとの回答が多いことから、事案伝承のため今後も継続して開催する。 二戸地域環境塾については、参加者から内容に対し良い評価を得られているものの、高校2校からの参加に留まったため、地域内の全ての高校に周知し、地域全域からの参加と参加者数の増加を目指す。 にのへエコフェスタ(カシオペア環境フェスティバル)については、令和5年度以降は来場者数やエコキャラコンテスト応募作品数が低調のため、開催時期や周知方法等の改善、新規参加の企業・団体等の開拓を図る。

地域経営推進費 事業評価結果一覧表

	名称		金額		事業コード			評価結果
No.	事業名	事業主体	事業費 (円)	推進費 (円)	事業性質	事業小区分	種別	事業実施主体による評価
11	北いわて再生可能エネルギー推進事業	県北広域振興局	190,780	190,780	4 県・上記以外	10 環境	1 ソフト	(1)一般(親子)向け普及啓発セミナー ・これまでのアンケート結果から、県北地域の再エネのポテンシャルが高いことは一般的に知られているが、そのポテンシャルの高さ(=誇れる地域であること)が住民に浸透していないことが分かっている。 ・再エネ導入により外貨の獲得や雇用の創出など、地域力の向上につながっているというメリットを発信することで、県北地域が、再エネ分野の普及により「首都圏に負けない魅力的な産業が育ち、若者に選ばれる地域になる」ことを示す必要がある。 ・このように、引き続き普及啓発を図る必要があるものの、各市町村でセミナー形式による普及啓発イベントが実施され始めており、取組が重複することから、同じ形式での開催は難しい。 ・他団体との住み分けをしつつ、効果的な普及啓発を進めるため、手法・手段の変更を行う必要がある。 (2) 洋上風力発電等の地元企業向けセミナーの開催(継続) ・洋上風力発電は地域産業の多角化など、地域経済へのメリットが多岐にわたることから、引き続き商工会議所と連携することとする。
12	「白銀のひかり」ブランド化推進事業	県北広域振興局 久慈地方農業農村活性化推進協議会	1,170,757	699,395	2 県・補助	6 農林水産業	1 ソフト	生産振興及び認知度向上の両面の取組により、管内生産者の「白銀のひかり」に対する理解醸成を図ることができた。 一方で消費者への認知度は未だ低いため、次年度施策で重点的に取り組む。
13	二戸地方農業DX導入推進事業	県北広域振興局	291,742	291,742	4 県・上記以外	6 農林水産業	1 ソフト	農業DXやスマート農業技術の必要性を啓発する研修会の継続と併せて、現地での検討会やデモ実演を通じて、スマート農業技術を直接実感できる機会を作るとともに、スマート農業技術を活用した経営改善実証を行うことによって、広く地域への導入を促進する。
14	ブランド果物育成支援事業	県北広域振興局 二戸地方りんご生産部会若者会	253,903	199,617	2 県・補助	6 農林水産業	1 ソフト	・二戸地域オリジナルブランドの育成に向け、産地主導の品種開発により生産者の意欲が向上し、品種登録に向けた一環として有望系統の試食会の開催などの活動に繋がっている。 ・地域オリジナルブランドの育成に向けて、各関係機関と協力し、養成ほ場や樹体管理、生育調査等を進めるとともに、「特徴のある産地づくり」に向けて協議するほか、情報共有を図りながら事業を行っていく。
15	二戸地方魅力ある農村地域活動促進事業	県北広域振興局	522,787	522,787	1 県・委託	6 農林水産業	1 ソフト	今年度の事業実施状況や各市町村へのヒアリングから、二戸地域では農村RMOへの理解が不足していること、若手の地域の中心人物(地域コーディネーター)候補者が少ないことが課題として挙げられた。 地域をまとめるスキル向上のため、令和8年度は支援回数を増やし(3回→6回)人材育成とRMO形成に向けた地域の体制整備等支援を実施することで、管内への理解促進と機運醸成を図る。
16	久慈地方野菜産地拡大加速化事業	県北広域振興局 久慈地方農業農村活性化推進協議会	555,753	419,258	2 県・補助	6 農林水産業	1 ソフト	県内有数のほうれんそうの産地を維持しつつ、新規野菜品目を地元に着させ、生産・販路拡大を進めることができた。
17	北いわて農業農村魅力発見・発信事業	県北広域振興局	478,460	478,460	4 県・上記以外	6 農林水産業	1 ソフト	① 成果 研修会を通じ、グリーン・ツーリズム実践者や関係団体(地元NPO法人、グリーン・ツーリズム協議会、観光協会等)が一体となって周遊ルートの検討を行い、案の作成まで進んでいる。 ② 分析 実証調査のアンケートでは、概ね好評であったが、全体的にイベントを詰め込みすぎて時間的余裕がない、という意見も多く、周遊ルートのブラッシュアップが必要と考えられる。 ③ 今後 県北圏域での広域の周遊ルートの造成に向け、旅行代理店等への研修会等の委託により、観光客が来て満足してもらえるような周遊ルートのブラッシュアップを図る。

地域経営推進費 事業評価結果一覧表

名称			金額		事業コード			評価結果
No.	事業名	事業主体	事業費 (円)	推進費 (円)	事業性質	事業小区分	種別	事業実施主体による評価
18	新規就「業」者確保定着推進事業	県北広域振興局 久慈地方農業農村 活性化推進協議会	763,973	667,026	2 県・補助	6 農林水産業	1 ソフト	①成果 目標である40人を上回る新規就農者を確保しており、当事業の成果が着実に表れていると考えられる。 ②分析 現状の新規就農者は、他地域で就職後にUターンした方が多く、地域に所縁のない方の就農や高卒、大卒で就農する事例がない。 ③今後 今回作成した雇用就農パンフレットやガイドブックを活用して、県外の就農イベントで、より当地域での就農をPRするとともに、地域の中高生に向け、職業としての農業をPRする必要がある。
19	林業・木材産業新規就業サポート事業	久慈地方「木の仕事」協議会	540,130	359,780	2 県・補助	6 農林水産業	1 ソフト	久慈翔北高校での出前授業・林業機械操作体験を通じ、地域の林業・木材産業への理解醸成は深まったと考えられ、継続した取組により、地元企業への新規就業者(協議会内新規採用者R7:8名)やいわて林業アカデミー入校生は途切れることなく確保されている。 今後も継続した就業支援を行う必要があり、久慈翔北高校での体験型林業・木材講座に加え、管内の他の高校での出前授業等を行い、理解度向上に努め、新規採用者確保を図りたい。
20	特用林産物振興推進事業	県北広域振興局	66,520	66,520	4 県・上記以外	6 農林水産業	1 ソフト	首都圏イベントでのしいたけ販売数は目標を達成しているが、認知度(特に木炭)はまだまだ低いと感じられるため今後も継続して取組みを実施する。 販路の拡大(銀河プラザでの常時販売やECサイト開設)と併せて、地元でのイベント開催により、生産者の所得向上・経営安定化を図ることとしたい。
21	浄法寺漆資源確保支援事業	県北広域振興局	1,623,318	1,623,318	1 県・委託	6 農林水産業	1 ソフト	漆資源量調査を実施したほか、ウルシ林の保育管理技術及び獣害対策に係る研修会の開催、生漆採取後のウルシ原木の有効活用方法について検討を行った。今後も、市町村・関係機関と連携しながら、持続的な漆資源の確保、生漆の生産基盤の安定化に取り組んでいく。
22	浜の担い手確保育成事業	県北広域振興局	152,134	152,134	1 県・委託	6 農林水産業	1 ソフト	高校生を対象とした水産業の座学、体験学習を通じ、水産業の現場への理解・興味を深める場の提供ができた。しかし、高校卒業後すぐに漁師になるケースが少ないことから、今後は、Uターンでの漁業就業のきっかけ作りにも取り組む考え。 安全講習会により、漁業者に対する安全意識の啓発を行うことができ、今年度もアワビ期間中の事故等は発生しなかった。今後も潜水漁業者への安全講習を継続するとともに、漁船漁業・定置網漁業に対する講習会を企画・開催することにより、管内の安全操業を維持したい考え。
23	うに・あわび餌料海藻生産活性化事業	県北広域振興局	312,748	312,748	1 県・委託	6 農林水産業	1 ソフト	管内の漁業生産量を向上させるために必要な試験実施及びデータ収集に繋がれたもの。
24	県北地域における「海業」推進対策事業	県北広域振興局 久慈地域「海の幸」PR協議会	1,570,799	1,070,800	2 県・補助	6 農林水産業	1 ソフト	本事業の実施により、漁業者をはじめとした関係者の「海業」に対する理解が進み、ワークショップによる「海業」コンテンツ案の作成を通じて、実施に向けた具体的な手順についても共有できた。 来年度以降も管内の「海業」の取組を推進し、管内漁業者の所得向上及び関係人口、交流人口の拡大を図り、地域の活性化に繋がっていきたい。
25	北いわて食の魅力発信事業	県北広域振興局	2,092,015	2,092,015	1 県・委託	2 食産業	1 ソフト	八戸からの鉄道ツアーと連動したなにゃーとでのイベントの開催及び八戸ラピアでのイベントにより、北いわての食の魅力発信及び販路拡大が図られた。一方、八戸圏域在住者に対する県北エリアへの周遊性が課題として挙げられることから、次年度はラピア販売会において、観光コーナーを充実した内容に改善し、出店者の商品に関するSNS情報発信等を販売会と連動して取り組むことにより周遊性を高め、更なる三八地域への販路拡大・認知度向上を図っていく。 R5・6年度に実施した「食産業関係者招聘ツアー」の事例発表及び招聘ツアーで課題となった情報発信力強化のためのセミナーを開催し、招聘ツアーの成果及び課題を県北地域の食産業事業者へ横展開することができた。また、セミナーへの参加の他、個別の企業訪問により事業者の経営課題及び支援ニーズを把握し、意欲ある事業者の掘り起こしができた。次年度は、それらの事業者の販路拡大を支援するため、首都圏飲食店のシェフ等を対象にした産地見学会を実施する。

地域経営推進費 事業評価結果一覧表

名称			金額		事業コード			評価結果
No.	事業名	事業主体	事業費 (円)	推進費 (円)	事業性質	事業小区分	種別	事業実施主体による評価
26	北いわて栗の魅力発見事業	県北広域振興局	139,971	139,971	4 県・上記以外	2 食産業	1 ソフト	令和7年度の取組を通じ、二戸の栗の実態(甘さが劣り、安価。各々のタイミングで採取し販売)が把握できた。また、温暖化対策として、他市町村の果樹生産者はももではなく、栗を選択していることを学ぶことができたことで、以下の課題が明確となった。 ①栗の商品価値向上のため、栽培管理技術の向上と品質管理技術(冷蔵貯蔵・熟成)の導入が必要 ②栗の需要拡大のため、適正な品質管理を行った栗の加工実証が必要 ③温暖化対策として、りんごの早生品種代替の可能性検討が必要 令和8年度は、これらの課題に対応した取組を進める。
27	北いわてアパレル産業認知度向上事業	県北広域振興局	309,574	309,574	3 県・負担金	1 ものづくり産業	1 ソフト	インターンシップの参加者数は目標値に達しなかったが、これまで受け入れ実績の無い専門学校からも参加があった。 来年度は制作した動画や過去に制作したパンフレット等の成果物を活用して、引き続き情報発信を行い、採用に結び付けていきたい。
28	北いわてものづくり産業人材育成事業	県北広域振興局	882,576	882,576	3 県・負担金	1 ものづくり産業	1 ソフト	県北ものづくり改善塾については、自社の課題を持参する方式で実施し、計7回10社13名が参加した。修了生からは今後自社で改善の取組を続けていきたい等前向きな意見をいただいたほか、派遣元企業からも改善塾に参加させた効果について評価をいただいており、県北地域の製造業の業務効率改善に繋がる取組となった。一方、近年参加企業が固定化しているため、周知の機会を新たに設ける等、参加企業開拓、参加者数増加を図りたい。 引き続き、県北地域ものづくり産業ネットワークと連携し、県北ものづくり改善塾やフォローアップ研修を通じて、企業の生産性向上及び従業員の技術力向上に向けた人材育成に取り組む。
29	北いわて観光情報発信力強化事業	県北広域振興局	1,396,000	1,396,000	1 県・委託	3 観光産業	1 ソフト	観光客誘客のためには最新かつ最速の観光情報発信が必須であることから、今後も同ガイドブックを活用した観光情報発信や、市町村等SNS連携を継続する。
30	カシオペア地域商工観光連携推進事業	二戸地区広域商工観光推進協議会	2,279,500	1,139,000	2 県・補助	3 観光産業	1 ソフト	①補助事業により、地場産業の意欲ある取組を支援することができた。R8年度も引き続き地場産業の振興や交流人口拡大に向けた新たな取組を支援する。 ②雑誌掲載により二戸地域の温泉施設や飲食店等の魅力を発信し、取り上げた施設の誘客につなげることができた。 ③マンガ九戸政実物語(日本語版)を増刷し、県外のイベントや管内施設等で配布することで、県内外からの誘客促進を図ることができた。
31	北いわて若者交流促進事業	県北広域振興局	198,521	198,521	1 県・委託	7 地域医療・健康づくり	1 ソフト	・若者の交流促進・ネットワークづくりについては、参加目標数を達成し、参加者からも概ね好評であったことから、次年度も継続実施したい。なお、結婚支援については、人口減少対策として喫緊の課題であり、引き続き、新たな取組等についても検討していく。 【参加者アンケート】 健康への意識変化はありましたか:とても変化した14、変化した32、どちらともいえない7、あまりなかった2、なかった1 自由記載:「同じグループの人たちと一緒に弁当を食べたり動いたりしグループにうちとける良い内容だった」等 ・市町村等と連携した結婚支援については、県北地域結婚支援関係団体等連絡会議等を活用し県事業の積極的な活用を促進するなど、一層の連携強化に努めていく。
合 計			23,291,950	20,653,491				

地域経営推進費 事業評価結果一覧表

県北広域振興局

	名称		金額		事業コード			評価結果
No.	事業名	事業主体	事業費 (円)	推進費 (円)	事業性質	事業小区分	種別	事業実施主体による評価
1	アンバーホール吹奏楽クリニック	久慈市	5,202,618	3,468,000	5 市町村事業	15 その他圏域の課題解決	1 ソフト	本事業は、少子化の進行により各学校・団体単独での活動継続が難しくなる中、久慈地域全体で吹奏楽文化を支える基盤づくりとして有効に機能した。専門的な指導による技術向上に加え、合同練習や合同演奏を通じて、世代や所属を越えた交流が促進され、地域内のつながりの強化にもつながった。来場者数は目標を下回ったものの、来場者満足度は高く、事業内容そのものの質と地域への訴求力は十分に確保できたと評価できる。 一方で、参加者からは開催時期、曲数や編成、配置転換や進行に関する改善意見も見られ、来場者からも案内や進行面について意見があった。次年度以降は、学校行事との重なりを踏まえた時期設定、参加者負担や編成バランスを考慮したプログラム構成、案内や転換を含む運営面の改善に加え、広報の強化による集客向上にも取り組み、より参加しやすく、より多くの住民に届く事業へ発展させたい。
2	平庭高原闘牛場整備事業	久慈市	2,999,700	1,999,000	5 市町村事業	3 観光産業	2 ハード	本整備により、来場者の快適性の向上を図ることができた。また、来年度に当市で開催予定の全国闘牛サミットに向けた環境整備が図られた。満足度の向上により、当市や当地域への観光客の増加に繋げるよう、今後も闘牛大会をアピールしていきたい。
3	観光産業活性化支援事業	久慈市	499,400	332,000	5 市町村事業	3 観光産業	1 ソフト	みちのく潮風トレイルの認知が進む中、通常のコースとは別に寄り道ができるコースを設定できたことは、今後の観光振興の寄与に期待ができるものとなった。 また、JR八戸線を利用して訪れた観光客や、みちのく潮風トレイルの利用者には、マップを手に取り、さまざまな資源に触れていただき、魅力を発信していきたい。
4	琥珀と恐竜化石を活かしたまちづくり事業	久慈市	7,140,110	4,760,000	5 市町村事業	3 観光産業	1 ソフト	クマ出没の影響が大きく、成果指標を達成することはかなわなかったが、絵画コンテストの対象者を拡大したことや参加者に採掘体験引換券を配布するなど新しい取り組みをすることで参加機会の創出と関心の醸成に寄与するとともに、実施事業を通じて地域内外へ琥珀と恐竜のまちを発信することができた。 また、化石発掘調査地の拡張により多くの化石が発見され、化石採掘の促進に寄与することができた。 さらなる認知度の向上や誘客拡大に向けて関係機関と連携し、より効果的に事業を実施していく。
5	久慈市中高生海外派遣研修事業	久慈市	5,436,236	3,357,000	5 市町村事業	12 NPO・コミュニティ	1 ソフト	これまでの交流実績を基盤とし、姉妹都市の認知度向上と国際相互理解に努める。研修プログラムのさらなる充実に向け、事前・事後研修の質的向上を図りつつ、持続可能な派遣体制の構築を支援していく。
6	合唱ワークショップ&アンバーホール合唱祭	久慈市	554,221	369,000	5 市町村事業	15 その他圏域の課題解決	1 ソフト	本事業は、合唱ワークショップによる育成機能と、合唱祭による成果発表・交流機能を一体的に実施した点に意義があった。ワークショップで身に付けた学びを発表の場で可視化できたことで、参加者の達成感や継続意欲の向上につながり、地域内外の団体を交えた構成により、世代や地域を超えた交流の機会も創出できた。 一方で、ワークショップ延べ参加者数は目標に近い水準を確保したものの、合唱祭来場者数は目標を下回った。また、交流に関する評価は成果発表や達成感に比べると改善の余地がある。次年度以降は、参加しやすい日程設定や周知の工夫により参加者・来場者双方の拡大を図るとともに、合同練習や出演者交流の機会をより意図的に設け、団体間ネットワークの形成をさらに促進していきたい。
7	青の国魅力情報発信事業	普代村	9,141,000	2,284,000	5 市町村事業	15 その他圏域の課題解決	1 ソフト	テレビの放送だけでなく、WEBページやYouTubeでもアーカイブ配信を行い、普代村の情報や魅力を発信できた。また、首都圏で行われた移住イベントでは、番組YouTubeを放映し、首都圏に住む方々と直接会話しながら、普代村をPRすることができた。次年度は、村のSNS全般を活用し、番組の情報発信を強化していきたい。また、視聴者からの感想等についても、把握できるような工夫を検討していきたい。
8	心の支え「普代の方言」保存・継承事業(事業廃止)	普代村	0	0	5 市町村事業	15 その他圏域の課題解決	1 ソフト	映像の方向性については、当初計画時点では方言談話を収集し、素材が一定の質と量に達した段階で編集を確定する予定だった。しかし、素材の収集にあたり、当初では想定できていない部分、考えが及ばなかった部分など、編集作業に入る前に品質や内容を確保する必要があることが判明した。このため、事業の進行にあたり、事業の計画を見直し、素材収集を優先することとした。事業構想時点でもう少し解像度を上げるべきであった。

地域経営推進費 事業評価結果一覧表

県北広域振興局								
名称			金額		事業コード			評価結果
No.	事業名	事業主体	事業費 (円)	推進費 (円)	事業性質	事業小区分	種別	事業実施主体による評価
9	追手門学院大学との学官連携推進事業	普代村	895,418	596,000	5 市町村事業	15 その他圏域の課題解決	1 ソフト	追手門学院大学との学官連携推進事業を通して、本村における新たな魅力の発掘及び地域課題の解決に向けた中期計画に基づいた取組が図られています。昨年度から国指定無形民俗文化財である鶴鳥神楽英語版リーフレット制作をはじめ、外国人向け利活用(154部)に繋がっています。また、みちのく潮風トレイル等を通じた、村内観光施設の利用促進を図るためインバウンド観光客向け英語版リーフレットとしての効果は高いと感じており、今年度においては村内宿泊施設における英語版リーフレットの制作を行いました。一方で、各宿泊施設の利用促進に繋がるよう、英語版リーフレットの今後更なる工夫が必要と感じています。
10	道の駅青の国ふだい集客PRイベント支援事業	普代村	1,773,834	333,000	5 市町村事業	9 防災・危機管理	1 ソフト	ふだいまつりと同時開催としたことで各イベントを単独開催するよりも内容の充実が図られ、イベント全体での来場者の増加につながり地域活性化と村内経済循環に寄与することができた。また、イベント来場者が震災パネル展示にも立ち寄ることから、防災意識を高めるイベントとしての効果も高い。一方で、道の駅としての売り上げにもつながるよう、商品企画や販売方法等について今後更なる工夫が必要である。
11	黒崎キャンプ場施設整備事業	普代村	7,260,000	4,840,000	5 市町村事業	3 観光産業	2 ハード	工事が年度末に完了となったことで、成果に反映するのは次年度以降となる。次年度も同様に、腐食し使用に堪えないベンチやテーブルを更新予定であるため、ハイシーズンに向けできる限り早めに工事を実施したいと考えている。そして、利用者目標数達成に向け、情報発信も強化していきたい。
12	米田浜津波堆積物地層保護事業	野田村	1,881,000	627,000	5 市町村事業	15 その他圏域の課題解決	2 ハード	案内看板を新設することで、「米田浜津波堆積物」を起点とした文化財・ジオパーク関連の事業への活用が期待できる。
13	中平遺跡出土遺構保存事業	野田村	1,881,000	627,000	5 市町村事業	15 その他圏域の課題解決	2 ハード	案内看板を新設することで、「中平遺跡」を起点とした歴史・文化関連の事業への活用が期待できる。
14	山村地域(横合地区)活性化事業	野田村	2,175,641	1,450,000	5 市町村事業	12 NPO・コミュニティ	1 ソフト	令和7年度は、令和6年度の課題検討で分析した地域のもつ課題やニーズの解決のため地域おこし体験プログラムの構築と実施を主眼に事業を実施した。令和7年度の活性化事業では地域の担い手が生まれつつあり、地区もそれを受け入れる土壌が育ちつつあることが確認できた。 令和8年度では、それら地域の担い手と地区が関わり合う一連の流れの構築により、令和6年度に分析した地区の課題の解決を目指す。
15	多職種連携教育事業	野田村	2,159,355	1,439,000	5 市町村事業	12 NPO・コミュニティ	1 ソフト	本村で数多く行われている各地の大学によるフィールドワークの中でも、目的や参加のターゲットが明確なものであり、人材確保、関連団体との関係構築、交流人口など、多面的な効果が期待できる。効果の最大化を図る観点から持続性の重要性を認識する一方で、今後の実施方法等について、財源を含めて様々な角度から検討する必要もある。 今後に向けた課題はあるものの、参加した学生の自主企画による振り返りの会、学生と村の交流会、各大学の教授陣と村による来年度以降の開催へ向けた検討会など、フィールドワークのみで完結せず交流が継続している点も踏まえて評価し、今後につなげていきたい。
16	十府ヶ浦海岸活用促進事業	野田村	3,696,000	2,464,000	5 市町村事業	3 観光産業	1 ソフト	十府ヶ浦は野田村民にとって愛着のある海であり誇りであることから、安全に安心して海に触れる機会を作れたことは、これからの世代の郷土愛の醸成に影響を与えている。また、近隣自治体の児童クラブの利用もあり、広域的にも夏の外活動のアクティビティとして活用され有意義な事業であった。一方で、三陸復興国立公園内での事業であることから、常設ができず毎年度復旧が必要であることから、費用が常にかかり続ける事業となっているため、費用対効果を検証し今後の取組みを検討する必要がある。
17	野田村フォトロゲイニング事業	野田村	600,000	400,000	5 市町村事業	3 観光産業	1 ソフト	参加者の8割以上が村外からの参加者であり、野田村に村外からの観光客を呼び込む誘客力のあるイベントであることを再認識した。また、村内参加者では小・中学生の子どもたちが上位を目指して本気で参加する姿が見られ、スポーツ×観光だけでなく、地域学習としても楽しんで取り組める事業となった。野田村だけでは開催できるエリアに限りがあることから、広域連携なども視野に入れて開催を継続していきたい。

県北広域		振興局						
名称			金額		事業コード			評価結果
No.	事業名	事業主体	事業費 (円)	推進費 (円)	事業性質	事業小区分	種別	事業実施主体による評価
18	道の駅のだ起点まち歩きマップ作成	野田村	486,200	324,000	5 市町村事業	3 観光産業	1 ソフト	『道の駅起点の歩く楽しみ方を提案することにより、通過型の利用を抑制し、村内への誘客の一助となることを目指す』という目的が幅広い層にマッチするよう、「気軽に歩ける」「(事前に計画されてウォーキングではなく)その場の思い付きレベルでも楽しめる」ことを意識し、気軽な散歩感を感じていただけるようなテイスト、デザイン、コピーライト、コースの距離設定などを考慮して作成した。 今後、マップを活用したイベントなども予定しており、活用の幅をさらに広げ、効果の最大化を図っていきたい。
19	餌料海藻確保対策事業	洋野町	913,636	406,000	5 市町村事業	9 防災・危機管理	1 ソフト	令和8年度も磯焼けの進行等による餌料不足が見込まれており、事業の継続により餌料海藻の確保と養殖技術の向上に取り組みたい。
20	カーボンニュートラル推進事業	洋野町	2,464,000	1,642,000	5 市町村事業	10 環境	1 ソフト	地球温暖化防止対策の一環として取り組んだ事業であるが、申請件数については目標値を下回っており事業開始初年度にあたりPR不足の感も否めない。次年度以降については、広報誌や町ホームページ、チラシの個別配布などPR方法を工夫して十分な周知を図りたい。 また、庁舎内において人員不足や専門部署がないことなどから地球温暖化に係る諸課題についての知見や認識が乏しく、住民への事業の目的や主旨等の説明が不十分であったため、可能であれば専門員を配置したり有識者より意見聴取するなど対応策を検討したい。
21	町シンボルキャラクター活用による魅力発信事業	洋野町	3,168,000	2,112,000	5 市町村事業	3 観光産業	1 ソフト	事業開始前に着ぐるみ発注増加による納期の遅れが見込まれたことから、今年度は製作及び庁舎内でのお披露目のみとなった。成果指標としての効果を評価するには、令和8年度以降となるが、5月に開催される当町20周年記念式典を皮切りに、町内外イベントで積極的に活用するほか、町SNS等で情報発信し、町のPRや魅力発信に努めていく。
22	複合施設としての「道の駅おおの(おおのキャンパス)」再整備事業基本計画策定事業	洋野町	7,835,890	5,223,000	5 市町村事業	3 観光産業	1 ソフト	おおのキャンパス活性化構想(グランドデザイン)及びおおのキャンパス活性化基本計画に基づき、魅力的な施設づくりにむけて、できるところから対策を講じるとともに、令和8年度に「おおのキャンパス活性化構想アクションプラン」策定に取り組むなど、評価と振り返りを継続して行う。
23	海から紡ぐ洋野町PR事業	洋野町	622,012	414,000	5 市町村事業	2 食産業	1 ソフト	依然として海洋環境の変化による不漁が続いている状況であるが、本事業の実施により水産業への支援ができたと考える。特に、町特産の天然ホヤについては、ゆうパックなどにより全国に直送している商品であり、町外でのPR事業を実施することにより、新たな販路開拓による消費拡大に繋がる可能性があるため、次年度においても、これまでの実績及び効果を検証しながら、実効性の高い事業となるよう取組みたい。
24	日本遺産奥南部漆物語推進事業	二戸市	2,000,000	1,333,000	5 市町村事業	15 その他圏域の課題解決	1 ソフト	これまで各市で漆器のPRを行ってきたが、日本遺産という共通のテーマで連携してイベント開催することで、行政の枠を超えて安比川流域の漆文化を発信することが出来た。 イベント終了後に参加者と意見交換を行った結果、「外会場と中会場の連動が不明瞭だった」、「イベント周知方法が不足だった」、「イベントテーマが曖昧だった(販売なのか周知なのか)」、「観光客の引き込みが不足だった」等の改善点・課題が残る結果となった。 上記の課題を解決するため、次年度はイベントテーマを「日本遺産事業の周知」に重点を置き、展示内容やレイアウトなどの見直しを図りながら事業を継続することで、安比川流域の漆文化のさらなる発信を目指したい。 また、イベント周知方法の見直しを行い、より効果的に周知するためSNS広告の活用や日本遺産ポータルサイト、浄法寺漆ポータルサイト、市広報紙ほか各種媒体への掲載を行うことで来場者の増加を図る。さらに会場内でのスタンプラリー等を新たに実施することで会場間の連動及び現地(二戸市及び八幡平市)へ訪れるきっかけ作りにつなげ、人々の交流を通じて地域経済の活性化を図る。

地域経営推進費 事業評価結果一覧表

県北広域振興局

名称		金額		事業コード			評価結果	
No.	事業名	事業主体	事業費 (円)	推進費 (円)	事業性質	事業小区分	種別	事業実施主体による評価
25	漆樽製作事業	二戸市	1,186,651	790,000	5 市町村事業	6 農林水産業	1 ソフト	1. 成果 本事業において、漆樽製作の基礎となる4工程(①木取り、②樽(側板)の加工、③組み立て、④外内仕上げ)の技術習得を達成した。指導者による技術評価においても一定の基準を満たしており、職人による丁寧な指導を通じて、漆樽製作の基盤となるスキルを身につけることができた。 2. 分析 上記の通り、主要工程の技術習得は図れたものの、研修を主目的として実施したため、作業の熟練度向上に至るまでの時間確保が難しく、当初掲げていた試作目標個数には到達できなかった。作業工程の理解と実作業スピードの両立が、今後の課題となった。 3. 今後 今年度実施した研修における課題を踏まえ、以下の通り実施する。 令和8年度は、令和7年度に習得した4工程に加え、新たに5工程の研修を実施する。これにより、段階的に全工程(計9工程)の習得を目指す。また、習得済み工程については1貫、2貫、3貫、5貫のサイズの異なる樽で反復練習を取り入れ、試作精度の向上を図る。 令和8年度も漆樽製作研修を実施し、漆の保管・出荷に不可欠な漆樽の供給力を安定させることで、本市の漆増産目標である「漆生産量2t」の達成に向けた基盤の整備につなげる。
26	浄法寺漆就業体験事業	二戸市	528,000	352,000	5 市町村事業	6 農林水産業	1 ソフト	漆関連産業に関心を持つ学生を対象に、座学と現場体験を組み合わせることで、漆産業の理解を深めるうえで有意義であった。参加学生からは「将来の進路を考えるきっかけになった」との声もあり、担い手確保に資する成果が得られたと評価できる。
27	二戸まつり「陸奥の土風」再現事業	二戸市	4,500,000	600,000	5 市町村事業	3 観光産業	1 ソフト	「陸奥の土風」に描かれているまつりの行列の一部を二戸まつりで再現することで、失われつつある二戸まつりの歴史や伝統を発信し、伝統的なまつりの様式美を保つことができた。一方で、一般公募参加者の増加、企業協賛金による財源確保に課題が残る。来年度は、参加者・協賛金募集方法の見直しを図り、ホームページ等だけでなく各種イベントで周知を行い、参加者と協賛金の獲得につなげ、自主財源での運営を目指す。さらに、再現範囲を拡大し更なる参加者確保に努めるとともに、親子参加枠を設けることで行列の魅力を向上させ、次世代への伝統文化継承につなげる。
28	二戸市産業活性化促進事業	二戸市	3,000,000	2,000,000	5 市町村事業	2 食産業	1 ソフト	産業まつりを行い、二戸市内外の方に市内製造業の現場を公開する機会を設けることで、地域の産業について知る機会を創出することが出来た。また、市内飲食店の出店数も年々増加しており、市内の経済活性へとつながった。一方で周知不足や周知方法の少なさに課題が残る。来年度はイベント告知期間の拡充や新聞、雑誌、ラジオ、テレビなどの主要なマスメディアを活用し、二戸市内外に情報を発信することで二戸市の産業の魅力を伝え、さらに市内の経済活性へとつなげる。
29	広報にのへ「二戸市合併20周年記念号」制作事業	二戸市	971,520	647,000	5 市町村事業	15 その他圏域の課題解決	1 ソフト	旧二戸市・旧浄法寺町の合併以降の20年間の主な出来事や施策の変遷を分かりやすく整理し掲載したことで、市の歩みを再認識する契機となり、市民の誇りや二戸市への愛着醸成につなげることができた。 また、特集記事として20歳を迎える若者や地域おこし協力隊など多様な立場の声を掲載したことで、市内外に「二戸市の魅力」や「今後の展望」を発信することができた。本記念号で取り上げた声を一過性の情報発信にとどめることなく、若者の地元定着やUターン・関係人口としての関与促進等、今後の継続的な施策展開へと発展させていきたい。
30	映画「海の沈黙」記念上映会開催事業	二戸市	1,259,500	839,000	5 市町村事業	15 その他圏域の課題解決	1 ソフト	来場者数の指標は達成できなかったものの、映画上映会や上映後のトークイベントでは、映画の背景や制作過程に関する理解が得られたとの声が多く寄せられ、映画を通じて二戸市ゆかりの芸術家である高田啓介氏の活動を広く認知するきっかけとなった。さらに、来場者アンケートの結果から、事業前後で比較し芸術文化に対する関心が高まったと回答した方が4分の3をしめ、地域における文化振興・教育機会の認知度の向上に関する一定の成果を得られた。この結果を踏まえ、芸術文化分野をはじめとした地域資源を活用する今後の施策展開につなげていきたい。
31	かるまい文化交流センター活用事業	軽米町	7,224,405	4,128,000	5 市町村事業	15 その他圏域の課題解決	1 ソフト	町の中心的施設である文化交流センターを有効に活用し、賑わいの創出、交流人口の増加を図ることができた。また、町や関係団体以外が主催する新規のイベントが開催されるなど、次年度以降に繋がる町全体の活性化が図られた。

県北広域		振興局						
名称			金額		事業コード			評価結果
No.	事業名	事業主体	事業費 (円)	推進費 (円)	事業性質	事業小区分	種別	事業実施主体による評価
32	レンタサイクル導入事業	軽米町	1,177,711	654,000	5 市町村事業	3 観光産業	1 ソフト	・昨年実証実験で導入した、GPS機能付きの電動アシスト自転車ではなく、一般に販売されている電動アシスト自転車を購入し事業を行い、ランニングコストの節約と、送料等含めた導入費用を大幅に節約することができた。 ・昨年実施したアンケート結果や、町内の方々からの声を聞き、言語が分からなくても写真や図で理解できるような利用説明を自転車に取り付けたことにより、利用者のマナー向上につながったと思われる。 ・ただ、PR不足のため、レンタル自転車のことを知らずに夏場街中を観光している方もいたので、もっとPRするようにとの町民の方より指導いただいた。来年度以降の運営に反映していきたい。
33	高齢者等ごみ出し支援事業	軽米町	695,397	463,000	5 市町村事業	8 子育て・福祉	1 ソフト	・高齢者や障害者ができる限り住み慣れた地域で自立した日常生活を営むため、今後ごみ出し支援事業は必要である。 ・施設入所や入院等で利用中止になるケースは増えているものの、支援が必要な高齢者等や家族から好評であることから、未利用者の高齢者等へ周知を図り、今後も住み慣れた地域で自立した生活を支援する。
34	移住定住支援事業	九戸村	607,510	405,000	5 市町村事業	12 NPO・コミュニティ	1 ソフト	・地域おこし協力隊の人数に関しては、目標を下回る実績となった。応募者が増えるよう、村からの情報を積極的に発信していく。 ・移住フェアのブース来訪者に関しては目標を上回るの実績となった。さらなる集客を目指し、積極的にPR活動を行っていきたい。
35	高齢者に優しい公共交通構築事業	九戸村	1,730,100	1,149,000	5 市町村事業	8 子育て・福祉	1 ソフト	デマンド交通の利便性向上とタクシー利用の促進を平行して実施したことにより、高齢者の多様なニーズに対応することができた。 デマンド交通の利用者数は、前年度から25%増となった。要因の一部として、ラッピング施工による一定の効果が現れているものと思われる。引き続き利用促進のため、地域に出向いての出前講座の実施、各種イベントにおいてのPR等を図り、周知を積極的に進めていきたい。
36	集客交流促進事業	九戸村	2,000,000	1,333,000	5 市町村事業	3 観光産業	1 ソフト	夏イベント:実行委員によるSNSを使った事業周知や恒例のイベントとしての認知度が高まったことなどから、昨年度を大きく上回る来場があった。 秋イベント:レシートラリーの実施により、来客がイベント会場に留まらず商店街や道の駅おりつめ「オドデ館」周辺を回遊する光景も見られ、九戸村を内外に広く発信する機会となるとともに経済波及効果も大きかった。 このように、村外からの誘客が図られる数少ないイベントであること、運営スタッフは若者から女性団体に至るまで幅広く参画していることなど、観光面に留まらず村おこしの観点からも成果が認められるため、更なる周知活動に努めながら今後も事業を継続し、村の一大イベントとして定着させていきたい。
37	九戸村消費喚起事業	九戸村	3,000,000	2,000,000	5 市町村事業	4 地場産業	1 ソフト	今回の補助事業により村内事業者の負担を軽減しつつ、村内での消費拡大やポイントカードの活用による一定の成果が得られたが、参加事業者の中にはポイント付与のためのポイント購買が負担となり離脱せざるを得ないなどの課題も新たに出てきた。 長引く物価高が村内消費行動に顕著に現れる中、物価高の影響に苦しむ消費者に村内での買い物をしていたくために、これまでのポイント付与事業だけではなく、電子決済を活用したイベント等を検討するなど、消費者の利便性を高める視点に立った事業の企画を考えていきたい。
38	東京TAMA交響楽団演奏ツアーin岩手県北事業	一戸町	3,696,000	533,000	5 市町村事業	15 その他圏域の課題解決	1 ソフト	町内の小中学校から、「コンサート終了後給食時間に間に合うように帰れるよう調整して下さい」との要望があり、当初予定していた講演時間90分を短くせざるを得なかったが、東京TAMA交響楽団の協力もあり時間内に完了することができた。当日の準備やリハーサルについてもスムーズに行うことができた。

県北広域振興局								
名称		金額		事業コード			評価結果	
No.	事業名	事業主体	事業費 (円)	推進費 (円)	事業性質	事業小区分	種別	事業実施主体による評価
39	カシオペア地域デジタル人材育成事業	一戸町	237,595	128,000	5 市町村事業	15 その他圏域の課題解決	1 ソフト	令和6年8月に北桜高校CTAを設立し、民間事業者・高校・町が連携して事業を進めた初めての通年となった。産業社会と人間学習支援事業では、2・3年生を対象とした企業個別説明会を6月に開催し、参加企業は24社と昨年度より増加した。昨年度より1社あたりの説明時間を多く取ることで、より深く企業を知る機会となり、進学後の就職や将来のUターンを見据えたキャリア形成に資する内容となった。また、1年生については1月に企業人による講義とパネルディスカッションを実施し、卒業後の進路選択や社会人として求められる姿勢を早期に学ぶ機会を提供することができた。 検定等取得支援事業では、助成件数が大幅に増加。ITパスポートをはじめとするDX関連資格の受検はなかったものの、生徒の関心や学習状況に応じた資格取得支援を行うことで、学習意欲の向上や就職活動に有利となる資格の取得を後押しすることができた。 本年度を通じて、北桜高校CTAは設立2年目として、企業・高校・町が連携したキャリア教育の基盤づくりが進んだ。次年度に向けては、本年度の事業をベースに、企業説明会の内容の充実、資格取得支援のさらなる周知・強化など、生徒の将来の選択肢を広げる取り組みを継続していきたい。
40	クアオルト健康ウォーキング導入事業	一戸町	6,490,600	4,327,000	5 市町村事業	7 地域医療・健康づくり	1 ソフト	目標としていたコースを開設し、運用を開始した。継続事業においてガイド数およびイベント開催数の増加を目指す。 参考) 令和8年度事業予定 ・御所野コース開設・認定に向けた調査開発およびツール(標識・ガイドマップ等)作成 ・ガイド養成講座開催 ・御所野コース認定記念式典及びオープニングイベント開催 ・ウォーキングイベント開催
41	一戸町若者地域活性化アクション支援事業	一戸町	3,787,410	2,522,000	5 市町村事業	15 その他圏域の課題解決	1 ソフト	県立北桜高等学校2年次の総合的な探究の時間における伴走支援については、毎回の授業の前後に担当教員との打合せを実施し、進め方や支援内容の共有を図りながら、円滑に取り組むことができた。学校と連携しながら事業を進めたことで、生徒の状況に応じた支援につなげることができた。 また、「マイプロジェクト」には高校生16人が参加し、5つのアクションを実施するとともに、発表会において成果の共有まで行うことができた。参加者が企画、実行、発表までの一連の過程に主体的に関わったことで、地域を自分ごととして捉え、地域参画への意識を高める機会となった。 3年間の事業実施を通じて、若者が主体的に地域のためのアクションを起こすための支援体制や関係づくりは、徐々に進んできていると考えられる。一方で、この取組を一過性のものにとどめず、継続的な活動へとつなげていくためには、事業実施後のフォローアップや関係機関との連携を一層進めていく必要がある。
42	若者の雇用定着推進事業	久慈市	6,815,000	4,543,000	5 市町村事業	5 雇用環境の整備	1 ソフト	キャリア教育事業はすぐに結果が出るものではないが、本事業のアンケートを通じて生徒たちが地域企業の魅力に気づいたといった意見が多かったことから、地域企業を知ってもらうことはできた。今後も継続していくことで、生徒たちの選択肢の一つとなるよう取組んでいきたい。 また、事後アンケートなどにより、地域企業の大卒等の採用意欲やインターンシップの受入意向、地元企業への関心は上昇傾向にあると認識しているが、同時に定着率などの課題も見えていることから、研修会や情報共有会を通じて課題解決を図り、学生にとって魅力ある企業となるための支援につなげていきたい。
43	若者の雇用定着推進事業	普代村	9,033,702	336,000	5 市町村事業	5 雇用環境の整備	1 ソフト	今後も久慈地域の中学生を対象に管内企業の魅力を伝え、将来の新規高等学校卒業者の管内就職率向上を目指していく。また、地域企業魅力発信事業の一環として、地域に根差す企業の魅力や特性を保護者や生徒側に直接伝えることで、地域に対する理解と関心を深め、地域におけるキャリア教育のさらなる充実と地域産業の活性化に寄与していく取り組みを継続していきたい。
44	若者の雇用定着推進事業	野田村	850,000	566,000	5 市町村事業	5 雇用環境の整備	1 ソフト	当該キャリア教育事業はすぐに結果が出るものではないが、本事業のアンケートを通じて生徒たちが地域企業の魅力に気づいたといった意見が多かったことから、地域企業を知ってもらうという目標を達成できた。今後も継続していくことで、将来的に久慈管内就職率の向上に繋がるものと思われる。 また、事後アンケートなどにより、地域企業の大卒等の採用意欲やインターンシップの実施意向は上昇傾向にあると認識しているが、同時に個別課題解決支援を通し、就職後の若者の定着率など課題も見えていることから、研修会や情報共有会を実施それら問題解決を図り、学生にとって魅力ある企業となり、将来的な久慈管内の就職率の向上につなげていきたい。

県北広域		振興局						
名称			金額		事業コード			評価結果
No.	事業名	事業主体	事業費 (円)	推進費 (円)	事業性質	事業小区分	種別	事業実施主体による評価
45	若者の雇用定着推進事業	洋野町	855,000	570,000	5 市町村事業	5 雇用環境の整備	1 ソフト	参加企業については、自治体と企業、学校と関係を持てたことにより、今後のインターンシップ受入れや採用活動等の前向きな取組みに期待できる。町内の参加企業に偏りがあったことから、本事業への参加をより多くの企業へ呼びかけ、地域をあげて企業の魅力化を図り、地元出身の学生の選択肢を広げられるよう、各事業や周知を継続して実施していく。
46	若年者定着促進事業	二戸市	2,499,200	883,000	5 市町村事業	5 雇用環境の整備	1 ソフト	高校生の地元就職率は前年等と比較しても特に高いものとなっている。高校生自身の希望もあるほか、地元就職を希望する保護者が多いことも要因と考えられる。本事業は即効性があるものではなく、また、これが一時的なものではなく恒常的なものとしていくためには継続した取り組みが必要である。中学校卒業後から市外への進学も少なくないため、中学生のうちから地元のことを知ってもらい、地元への就職・定着を意識づけるため、令和8年度には事業の対象に中学生のほか、大学生・専門学校生も加えた事業を実施することで中学生から大学生まで切れ目のない事業展開により地元への就職・定着を図る。
47	若年者定着促進事業	軽米町	2,499,200	266,000	5 市町村事業	5 雇用環境の整備	1 ソフト	高校生の地元就職率は前年等と比較しても特に高いものとなっている。高校生自身の希望もあるほか、地元就職を希望する保護者が多いことも要因と考えられる。本事業は即効性があるものではなく、また、これが一時的なものではなく恒常的なものとしていくためには継続した取り組みが必要である。中学校卒業後から市外への進学も少なくないため、中学生のうちから地元のことを知ってもらい、地元への就職・定着を意識づけるため、令和8年度には事業の対象に中学生のほか、大学生・専門学校生も加えた事業を実施することで中学生から大学生まで切れ目のない事業展開により地元への就職・定着を図る。
48	若年者定着促進事業	九戸村	2,499,200	149,000	5 市町村事業	5 雇用環境の整備	1 ソフト	高校生の地元就職率は前年等と比較しても特に高いものとなっている。高校生自身の希望もあるほか、地元就職を希望する保護者が多いことも要因と考えられる。本事業は即効性があるものではなく、また、これが一時的なものではなく恒常的なものとしていくためには継続した取り組みが必要である。中学校卒業後から市外への進学も少なくないため、中学生のうちから地元のことを知ってもらい、地元への就職・定着を意識づけるため、令和8年度には事業の対象に中学生のほか、大学生・専門学校生も加えた事業を実施することで中学生から大学生まで切れ目のない事業展開により地元への就職・定着を図る。
49	若年者定着促進事業	一戸町	2,499,200	366,000	5 市町村事業	5 雇用環境の整備	1 ソフト	高校生の地元就職率は前年等と比較しても特に高いものとなっている。高校生自身の希望もあるほか、地元就職を希望する保護者が多いことも要因と考えられる。本事業は即効性があるものではなく、また、これが一時的なものではなく恒常的なものとしていくためには継続した取り組みが必要である。中学校卒業後から市外への進学も少なくないため、中学生のうちから地元のことを知ってもらい、地元への就職・定着を意識づけるため、令和8年度には事業の対象に中学生のほか、大学生・専門学校生も加えた事業を実施することで中学生から大学生まで切れ目のない事業展開により地元への就職・定着を図る。
50	折爪岳馬仙峡県立自然公園活用支援事業	二戸市	2,051,765	389,000	5 市町村事業	10 環境	1 ソフト	各専門家の調査について、植生・陸産貝類調査については、実施することができ、今までの調査結果と令和7年度の調査結果をもとに折爪岳・ヒメボタル学習講座を開催することができた。昆虫調査については、実施時期を逃したこと、調査依頼先の先生の体調が芳しくないことから、実施することができなかった。調査依頼先の先生の検討を踏まえながら、来年度昆虫調査を実施する。来年度以降、各専門家の調査結果をガイド養成講座の説明に活用し、折爪岳及びヒメボタルについて正しい情報を得られる環境や体制を整備するとともに、当該自然公園を活用したイベントや講座を実施し、誘客及びヒメボタルの保護を図る。
51	折爪岳馬仙峡県立自然公園活用支援事業	軽米町	2,051,765	194,000	5 市町村事業	10 環境	1 ソフト	各専門家の調査について、植生・陸産貝類調査については、実施することができ、今までの調査結果と令和7年度の調査結果をもとに折爪岳・ヒメボタル学習講座を開催することができた。昆虫調査については、実施時期を逃したこと、調査依頼先の先生の体調が芳しくないことから、実施することができなかった。調査依頼先の先生の検討を踏まえながら、来年度昆虫調査を実施する。来年度以降、各専門家の調査結果をガイド養成講座の説明に活用し、折爪岳及びヒメボタルについて正しい情報を得られる環境や体制を整備するとともに、当該自然公園を活用したイベントや講座を実施し、誘客及びヒメボタルの保護を図る。
52	折爪岳馬仙峡県立自然公園活用支援事業	九戸村	2,051,765	194,000	5 市町村事業	10 環境	1 ソフト	各専門家の調査について、植生・陸産貝類調査については、実施することができ、今までの調査結果と令和7年度の調査結果をもとに折爪岳・ヒメボタル学習講座を開催することができた。昆虫調査については、実施時期を逃したこと、調査依頼先の先生の体調が芳しくないことから、実施することができなかった。調査依頼先の先生の検討を踏まえながら、来年度昆虫調査を実施する。来年度以降、各専門家の調査結果をガイド養成講座の説明に活用し、折爪岳及びヒメボタルについて正しい情報を得られる環境や体制を整備するとともに、当該自然公園を活用したイベントや講座を実施し、誘客及びヒメボタルの保護を図る。

地域経営推進費 事業評価結果一覧表

県北広域		振興局						
名称			金額		事業コード			評価結果
No.	事業名	事業主体	事業費 (円)	推進費 (円)	事業性質	事業小区分	種別	事業実施主体による評価
53	青の国魅力情報発信事業	普代村	9,141,000	4,285,000	5 市町村事業	15 その他圏域の課題解決	1 ソフト	テレビの放送だけでなく、WEBページやYouTubeでもアーカイブ配信を行い、普代村の情報や魅力を発信できた。また、首都圏で行われた移住イベントでは、番組YouTubeを放映し、首都圏に住む方々と直接会話しながら、普代村をPRすることができた。次年度は、村のSNS全般を活用し、番組の情報発信を強化していきたい。また、視聴者からの感想等についても、把握できるような工夫を検討していきたい。
54	「のだむら映画祭」開催事業	野田村	970,800	724,000	5 市町村事業	3 観光産業	1 ソフト	映画を通じ震災の記録・記憶を繋いでいくことができた。また、野田村パエリアお振る舞いなど野田村の取り組み・魅力を知っていただくことができたと感じる。 地域経営推進費を活用しての事業実施は令和7年度が最後となるが、参加者からの満足度も高いため、道の駅のだを活用した映画上映など、映像を活用したイベントについて継続していきたい。
55	ふるさと納税広告動画活用事業	野田村	1,214,840	910,000	5 市町村事業	15 その他圏域の課題解決	1 ソフト	昨年度に引き続き広告事業を行い、より多くの方に村のことや特産品のことを周知することができたと考えられる。また、広告のターゲットを明確にすることで、クリック数が昨年度(16,428回)より増加する等、効率的な広告を行うことが出来た。ふるさと納税の実績を増やすことは出来なかったが、興味を持ってくれた方は増えていると思われるので、来年度はさらに動画を見たうえで検索する方に効果的に広告が表示されるような取り組みを実施していきたい。
56	塩の道を歩こう会40周年記念事業	野田村	590,000	442,000	5 市町村事業	3 観光産業	1 ソフト	昨年度再設置した「野田塩ベコの道」起点碑とともに三陸ジオパークの文化サイトでもある「塩の道」について伝える案内板を設置することができた。来訪者がいつでも塩の道について知ることができるとともに、震災学習や三陸ジオパークガイドの際に活用し、野田村の文化を後世に伝える活動に生かしていきたい。
57	地域間交流事業	野田村	668,300	501,000	5 市町村事業	15 その他圏域の課題解決	1 ソフト	村の取り組みなどを紹介することにより、興味をもってくれた人たちから、「野田村に行ってみたい」との話もあり、交流人口拡大の一助になると思われる。また、どの事業も様々な人たちと対話での交流があり、特産品や取り組みのPRのみならず、交流の深化・発展にもつながるものと考えられる。 令和7年度においては、様似町の職員が村民と交流を行ったほか、過去にフィールドワークで野田村を訪れた大阪大学の学生のうち、数名が野田村を題材とした共同研究活動を実施した事例もあるなど、着実に交流の深化が図られているものと実感している。 特に友好町村交流事業においては、令和7年度からのだまんぶくマルシェに様似町が出店することにより、これまでの職員を中心とした交流から民間の交流に繋げるきっかけとすることができたと感じている。令和8年度においても今年度までの取組を踏襲し、職員同士の交流を深めるとともに、民間同士の交流活性化にも繋がる取組を実施することで更なる交流の活性化・深化が図られるよう取り組んでいきたい。
58	野田村パエリアプロジェクト(事業中止)	野田村	0	0	5 市町村事業	2 食産業	1 ソフト	事業計画書提出時のヒアリング結果を踏まえ、委託予定先と費用面・内容面の見直しについて、調整を試みたが、最終的に折り合いがつかず、当初想定していた内容での実施が困難となった。 その後、事業内容を一部変更しての実施に向けて調整を進めてきたが、新たな委託先の確保や事業内容の検討に時間を要し、年度内の事業着手が困難となったことから、やむを得ず中止とすることとなったもの。 地域経営推進費事業の野田村パエリアプロジェクトとしてのイベント実施等は行わなかったが、令和8年6月に移転オープンした道の駅のだのオープニングセレモニーなど、村内の各種イベントで「野田村パエリア」が提供される機会があることから、村内において「野田村パエリア」の知名度向上、定着推進が一定程度図られているものと認識している。
合 計			159,168,407	78,987,000				